

第33期

新規事業開発担当幹部 交流会議

—異業種交流による相互啓発と新規事業開発に繋がるヒューマンネットワーク形成の場—

第1回例会 【日 時】2019年3月26日(火) 13:30～18:30 【会 場】東京・表参道「アイビーホール」

《基調講演とグループ討議・懇親会》

(※本会合への正式入会をご検討中の方に限り、無料で体験参加いただけます。)

『新生デュポンの成長戦略とイノベーション』

- ・200年以上続く会社のCore Values(基本的価値)
- ・持続的成長を目指した変革(Transformation)の歴史
- ・ダウ・デュポン統合により誕生した「新生デュポン」の成長戦略
- ・顧客・パートナーとの協働によるイノベーション創出の取組み
- ・グローバルの中でのデュポン・イン・ジャパンの役目、他



デュポン(株) 代表取締役社長 田中 能之 氏

略
歴

1982年東京大学大学院 理学系研究科 化学専攻修士課程 卒業、デュポンファーマーイスト日本支社(現デュポン株式会社)入社。1994年エレクトロニクス事業部 回路基板材料部 企画・開発部長、1999年デュポン i テクノロジー事業部 事業部長 兼 アジア太平洋地域 高機能材料事業リージョナルビジネスディレクター、2001年3月デュポン株式会社 取締役、2001年12月米国デュポン社 i テクノロジー事業部 回路基板材料事業 グローバル ビジネス ディレクター、2006年デュポン アジア パシフィック リミテッド デュポン エレクトロニックテクノロジー 高機能材料事業 グローバル ビジネス ディレクター、2009年デュポン アジア パシフィック リミテッド デュポン エレクトロニクス&コミュニケーションズ 半導体製造材料事業 グローバル ビジネス ディレクター、2013年デュポン株式会社 代表取締役社長(現在に至る)。2016年デュポン・スペシャルティ・プロダクツ株式会社 代表取締役社長(現在に至る)、デュポン・プロダクション・アグリサイエンス株式会社 代表取締役、2017年デュポン・プロダクション・アグリサイエンス株式会社 代表取締役社長に就任。

第2回例会 【日 時】2019年4月16日(火) 13:30～17:00 【会 場】東京・表参道「アイビーホール」

《特別講演とグループ討議》

『IoT時代の日本企業をどう方向付けるか～オープン&クローズ戦略とデータ活用を必要とする時代の到来～』

1. 100年に一度とも言うべき経済革命
 - ・ビジネス・エコシステムの進展
 - ・エレクトロニクス産業でゲームチェンジ
 - ・アーキテクチャ思考がイノベーション思想の主役へ
2. IoT時代に企業研究会の周りでどんなことが起こるか
 - ・至るところでゲームチェンジ(自動車産業も例外ではない)
 - ・サイバー空間による価値形成(Industrie4.0も例外ではない)
3. 日本企業の方向性(1)オープン&クローズ戦略でモノの価値を守る
 - ・IoT時代の価値形成メカニズム:モノの価値を守る知財マネジメント
 - ・オープン&クローズ戦略とアーキテクチャ思考が必須
4. 日本企業の方向性(2)データ活用でモノの付加価値を高める
 - ・モノ/Assetはデータ発生のエンジン、日本は有利な立場にある
 - ・データは誰のものか
 - ・モノの付加価値を高めるデータ所有権とアクセス権のマネジメント
 - ・データへ直接アクセスするための市場構造設計
 - ・特定のプラットフォームにロックインされないための仕組み作り
5. 我が国企業の未来を予測する最良の方法は・・・



東京大学 政策ビジョン研究センター シニア・リサーチャー 工学博士 小川 紘一 氏

略
歴

1973年 富士通研究所・研究部長を経て、富士通のビジネス部門へ移籍、事業部長、理事を経て2004年から東京大学大学院・経済研究科ものづくり経営研究センター、2004年から上海の復旦大学・Information Science学科教授(2008年まで)、2008年から東京大学総括プロジェクト機構の特任教授を経て、2013年4月から東京大学 政策ビジョン研究センター、シニア・リサーチャー。主な研究領域は、「オープン&クローズ戦略」「知的財産戦略」「国際標準化と事業戦略」「IoT時代の競争戦略」。2015年～2016年にかけて、内閣府「科学技術イノベーション会議・重要課題専門調査会・システム基盤検討会」構成員、「基盤技術の推進の在り方に関する検討会」委員、文部科学省「科学技術・学術審議会」専門委員、経済産業省「ものづくり大賞」総理大臣賞選考委員、経済産業省「自動車の自動走行ビジネス研究会」委員を歴任。近著に、増補改訂版『オープン・アンド・クローズ戦略—日本企業再興の条件』(翔泳社)、「オープン・イノベーションシステム—欧州における自動車組み込みシステムの開発と標準化—」(共著/見洋書房)などがある。

第3回例会 【日 時】2019年5月17日(金)・18日(土) 【会 場】静岡県・伊豆の国市「大仙家」

《合宿研究会/コーディネーター講義・グループ討議と全体討議》

『新たな価値を創造する新規事業開発～メンバー各社の新規事業開発の現状と課題、問題意識を踏まえて』

※メンバー各社の事業環境、現在抱えている課題・問題意識を「メンバー交流シート」を活用しながら報告し合い、「新規事業創出に向けたポイント」についてグループ討議を行います。

第4回例会

【日 時】2019年6月18日(火) 13:30～17:00 【会 場】東京・表参道「アイビーホール」

《ゲスト講演とグループ討議》

『コマツのデータ活用による顧客価値拡大とイノベーションの取り組み ～KOMTRAX、SMARTCONSTRUCTION～』

- ・コマツの商品戦略 ～ダントツ商品からダントツサービス、ダントツソリューションへ
- ・データ活用による顧客価値の拡大
- ・ケース1:KOMTRAX(コマツ機械稼働監視システム)の活用
- ・コマツの企業価値向上の考え方 ～BM活動による顧客関係性強化とイノベーション、他
- ・ケース2:SMARTCONSTRUCTION(土木工事現場のソリューション)
- ・ケース3:AHS(鉱山無人ダンプ運行システム)、他



(株)小松製作所 ICTソリューション本部 フェロー 三輪 浩史 氏

略
歴

1981年4月(株)小松製作所入社、1981年8月生産技術研究所配属、1986年7月～1988年7月Carnegie Mellon Univ. Visiting Scientist、1994年10月研究本部中央研究所エレクトロニクス開発センタ視覚センサG GM(社内新事業に携わる)、2002年9月研究本部中央研究所建機研究室情報化施工グループGM、2004年4月開発本部建機エレクトロニクス事業部システム開発センタ主幹技師(KOMTRAXのサーバアプリ開発に携わる)、2009年4月建機マーケティング本部KOMTRAXグローバル推進部長、2013年1月ICTソリューション本部副本部長、2017年6月ICTソリューション本部フェロー、現在に至る。

開催にあたって

グローバル競争の熾烈化、異業種参入などのボーダーレス化、デジタル化の進展やIoT・AIの普及、ビジネスサイクルの短縮化など、企業を取り巻く環境が、かつてないほど大きく変化し、過去の常識が通用しなくなる中で、企業として成長を続けていくためには、既存事業の更なる強化に加え、国内外の魅力ある市場・産業を視野に入れた新規分野を多面的に開拓し、新たな価値を創造する新規事業開発が必要不可欠です。

当交流会議では、世界の潮流や技術革新・顧客嗜好の変化に対応した新規事業の創出に向けた戦略、組織として新規事業を生み出し続けるための体制・仕組みのあり方や、異業種・異分野との“共創”によるイノベーションの推進等も含む、その有効な具体策について、先進事例や今日的トピックスをもとに実践的な討議を行います。新規事業開発に役立つ発想や知識を得ていただけることは勿論、立場を同じくする新規事業開発担当の幹部・リーダーの方々による、信頼と協力関係をベースとした議論と交流を通じ、実際の新規事業に繋がるヒューマンネットワークを形成する場としても、大いにご活用をいただけます。

第33期開催にあたり、本趣旨にご賛同をいただける意欲のかつ熱意ある方々の参加を、切にお願い申し上げます。

参加対象

新規事業開発、研究・技術開発部、技術・事業企画部、マーケティング部等において新規事業開発をご担当、推進されている幹部・リーダーの方々

運営要領

研究テーマ	メンバー各社が抱えている課題・問題意識を反映し、最も関心のあるテーマを幹事・事務局で協議の上、毎例会の講演内容や、合宿研究会における研究・討議テーマとして決定します。
例会	新規事業開発をめぐる今日のトピックスや先進企業の成功・失敗事例、メンバーによる問題提起など、各方面の専門家、実務家からの話題提供を題材に、実務に直結した議論を行います。
合宿研究会	年2回(5月・11月)の合宿研究会では、時間の制約から解放されたグループ討議、意見・情報交流を通じて、研究テーマ(新規事業開発に求められる視点、新規事業を成功に導くために必要な戦略・施策等)を掘り下げるとともに、メンバー同士の更なる親睦を図ります。
企業見学会	新規事業開発の現場や企業の研究施設、工場などを訪問(10月)、視察見学、意見交換を行います。
本会の特徴	1. 新規事業開発のトレンドや考え方、実践手法について、最新の情報を収集できます。 2. 異業種交流を深めることにより、業種・業態を越えた新たな発想(気付き)が得られるとともに、新規事業に繋がる貴重な“社外ネットワーク”を形成することができ、今後の財産となります。 (メンバーの相互訪問や、キーマンの紹介など、例会外においても積極的な交流を図っています。) 3. 互いの守秘義務を順守しつつ、ギブアンドテイクをモットーに本音ベースの意見交換を行います。

【コーディネーター】	合同会社SNパートナーズ	代表取締役 (元 富士フイルム(株) 新規事業開発本部フェロー)	品川 幸雄
【運 営 幹 事】	旭化成(株)	研究・開発本部技術政策室シニアマネージャー	斉藤 修
	(株)ニコン	TOPプロジェクト企画・マーケティンググループ主幹	久後 泰三
	オリンパス(株)	イノベーション推進室技術戦略部2グループグループリーダー	田島 信芳
	古河電気工業(株)	戦略本部新事業推進部主幹	大島 宏文
	アサヒグループ食品(株)	研究開発本部研究開発企画部長	田頭 素行
	宇部興産(株)	医薬事業企画管理部主席部員	宮本 一夫
	帝人(株)	マテリアル技術本部マテリアル技術企画部担当部長	宮坂 信義
【研究協力委員】	合同会社MOTT	代表社員 (元 (株)リコー グループ技術開発本部)	小川 睦夫

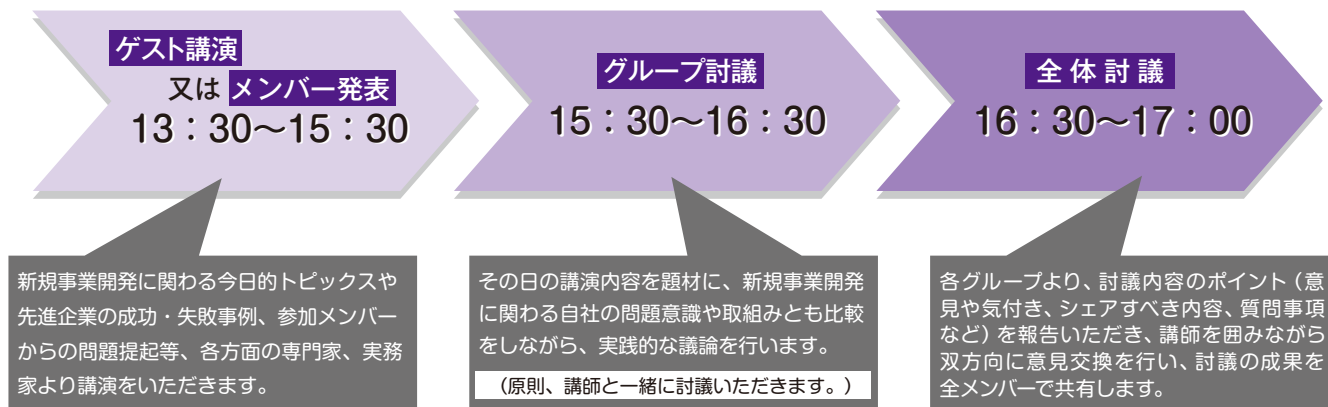
第33期の進め方

【開催日】2019年3月～2020年1月 (全12回／13:30～17:00を原則、都内会議室で開催)

第1回	第2回	第3回 合 宿	第4回	第5回	第6回
3 / 26 (火)	4 / 16 (火)	5 / 17 (金) ・ 18 (土)	6 / 18 (火)	7 / 16 (火)	8 / 20 (火)
第7回	第8回	第9回 見学会	第10回 合 宿	第11回	第12回
9 / 10 (火)	10 / 1 (火)	10 / 29 (火)	11 / 15 (金) ・ 16 (土)	12 / 10 (火)	20 1 / 14 (火)

* 5月・11月の合宿研究会、10月の企業見学会はスケジュール・会場が異なります。

【毎例会の基本的流れ】(時間配分は目安です。)



【グループ討議の大きな特徴】

*一般的なセミナースタイル(講演+質疑応答)とは異なり、原則、講演を終えたばかりの講師にも加わっていただく“講師と直接対話ができるグループ討議”を行うことで、講演内容をより具体的かつ実践的に理解し、吸収することができます。(グループ討議後の全体討議についても、講師を囲みながらの意見交換を行います。)

【有志勉強会(毎例会前に実施)】

*例会当日の午前(11:00～12:30)を活用した、新規事業に関する書籍の“輪講”を主体とする勉強会。新規事業に関する書物を読み、メンバーと意見交換することで自らの理解を補うことができます。更には、市場動向や企業動向、新規事業開発担当者としての心得など、生きた情報を得ることもできます。

<過去9年間の勉強会テキスト(書籍)一覧>

『シリコンバレー式 最高のイノベーション』(スティーブ・S・ホフマン)、『3000億円の事業を生み出す「ビジネスプロデュース」成功の道』(三宅 孝之・島崎 崇)、『ビッグバン・イノベーション』(ラリー・ダウンス+ポール・F・ヌーネス)、『経営の失敗学』(菅野 寛)、『シリアル・イノベーター「非シリコンバレー型」イノベーションの流儀』(アビー・グリフィン、レイモンド・L・プライス、ブルース・A・ボジャック)、『新しい市のつくりかた』(三宅 秀道)、『リーン・スタートアップ』(エリック・リース)、『ストーリーとしての競争戦略』(楠木 建)、『新規事業・成功の教科書』(坂本 桂一)

【研究テーマ】

◆ 『新たな価値を創造する新規事業開発、異業種・異分野との“共創”によるイノベーション』

1. 新規事業開発の戦略・企画、ビジネスモデル（儲ける仕組み）の構築

- グローバル・トレンドの分析と市場・産業の動向を視野に入れた新規事業開発
 - ・世界経済の行方、グローバル規模での産業界の潮流 ～世界では今何が起きているのか、市場はどう変化するのか
 - ・IoT時代の日本企業をどう方向付けるか ～オープン&クローズ戦略とデータ利活用を必要とする時代の到来
 - ・ライフサイエンス、環境・資源エネルギー、住・くらし、モビリティ、ロボティクス分野等の動向
- 新たな価値、魅力ある事業コンセプトの創造とビジネスモデルの構築
 - ・明言化されない真の市場・顧客ニーズの読みと商品・事業構想
 - ・イノベーションを目指す、常識の枠（バイアス）を取り払った思考の必要性
 - ・「IoT時代」「市場縮小とコモディティ化の時代」「モノ消費からコト消費の時代」におけるビジネスモデルの変革
- 新規事業開発の戦略と企画立案
 - ・経営首脳の思いとの意思統一、社内との意思統一、戦略の整合化
 - ・コアコンピタンス・コア技術の定義 ～他社との差別化の源泉どこに求めるか
 - ・市場と技術、ニーズとシーズのマッチング
 - ・グローバルな事業ポートフォリオ管理、事業ドメインの決定、及び開発対象の選定・絞り込みの方法

2. 新規事業開発の効果的かつ効率的な推進策 ～事業化の壁をどう超えるか～

- 異業種・異分野との“共創”によるイノベーション
 - ・オープン・イノベーションの推進と具体策 ～異業種・産学との連携、M&A、ベンチャーとの関わり方等
 - ・自社リソースの強み（競争優位性）と弱みを分析し、評価する仕組み
 - ・自前主義、独自性担保とオープン・イノベーションとのバランス、オープン・イノベーションへのトップの決意
- 事業評価と将来のニーズを読んだ迅速かつタイムリーな意思決定
 - ・開発、事業化のスピードアップと「GO/STOP判断」のタイミング
 - ・事業性の可否判断（撤退判断基準の明確化）
 - ・迅速な意思決定プロセスとトップを支える戦略参謀に求められる実行力
- 市場導入・市場開拓戦略の考え方とマーケティングの実践
- 失敗からいかに学び、次にいかに生かすか
 - ・環境変化にともなう軌道修正と事業戦略再構築の進め方

3. 新規事業推進のマネジメント ～組織・体制・仕組み～

- 組織としての強みを十分に発揮した新規事業開発の体制・仕組みと運用
 - ・組織としてイノベーションを生み出し続けるための仕掛け
 - ・新規事業人材、優秀なマーケットターの質的・量的強化に向けた方策
 - ～「能力&熱意のある人」をどう見出すか、外部から呼ぶのか？内部で育成するのか？
 - ・新規事業開発における研究開発の位置付けと役割、R&D部門と事業部門との人材ローテーション
 - ・既存事業部門との円滑な連携、営業面での協力、販売チャネルの組織化
- 新しい価値を創造するイノベーターの発掘と育成
 - ・新入社員にチャレンジ精神を植え付ける方法、新規事業に興味を持つ若手人材の育成方法
 - ・動機付け、評価およびインセンティブ ～中長期視点に立脚し、短期的成果主義とどう棲み分けるか
- 起業的、挑戦的企業風土の醸成とトップの理解・支援

《研究テーマ／講演内容》

1	『コニカミノルタにおける新規事業開発の取り組み ～失敗から学ぶこれからの新規事業開発』 コニカミノルタ(株) 産業光学システム事業本部 QOLソリューション事業部長
2	『旭化成グループの新規事業創出戦略 ～グループ融合による更なる高度化と、深化による新事業の創出』 旭化成(株) 代表取締役 兼 副社長執行役員
3	<合宿研究会> (静岡県・大仙家) 『新たな価値を創造する新規事業開発 ～メンバー各社の新規事業開発の現状と課題、問題意識を踏まえて』
4	『富士フイルムにおけるオープンイノベーションとデザイン思考の取り組み』 富士フイルム(株) 経営企画本部 イノベーション戦略企画部 シニアエキスパート Open Innovation Hub 館長
5	『ヤマハのイントレプレナープラットフォーム” Value Amplifier” の取り組み』 ヤマハ(株) ブランド戦略本部 マーケティング統括部 UX戦略部 UX企画グループリーダー
6	『日立のIoTプラットフォーム “Lumada” による新たな価値創造とオープンイノベーションの取り組み』 (株)日立製作所 執行役常務 CTO 兼 研究開発グループ長
7	『マニーにおける『世界一の品質』を目指した医療機器開発と事業戦略』 マニー(株) 取締役 兼 執行役員
8	『革新的新素材LIME Xによる世界に向けたマテリアルソリューション ～石灰石を使った『素材ビジネス』で資源問題の解決に挑む』 (株)TBM 代表取締役CEO
9	<企業見学会> (日本信号(株) 久喜事業所・安全信頼創造センター) 『日本信号における新規事業開発への取り組みと問題意識』 日本信号(株) 安全信頼創造センター 安全研究室長
10	<合宿研究会> (静岡県・時之栖) 『新たな価値を創造する新規事業開発 ～実践編／ケーススタディ』
11	『フリーにおける新規事業の成功法則 ～大企業からの独立(MBO)、そして東証1部上場へ』 フリー(株) 取締役会長
12	『日本企業におけるオープンイノベーションの課題』 一橋大学 経営管理研究科 准教授 西野和美氏

前期(第32期) 新規事業開発担当幹部交流会議 参加メンバー

(順不同／所属は2019年1月時点)

旭化成(株)	研究・開発本部技術政策室シニアマネージャー	JXTGエネルギー(株)	機能材カンパニー機能材事業化推進部事業化企画グループマネージャー
(株)ニコン	TOPプロジェクト企画・マーケティンググループ主幹	THK(株)	産業機器統括本部技術本部事業開発統括部事業開発企画課課長
オリンパス(株)	イノベーション推進室技術戦略部2グループグループリーダー	東芝テック(株)	商品・技術戦略企画部グローバル商品・マーケティング戦略企画室参事
古河電気工業(株)	戦略本部新事業推進部主幹	豊田合成(株)	商品企画センター技術企画部部長
アサヒグループ食品(株)	研究開発本部研究開発企画部長	東山フイルム(株)	事業本部事業企画部課長
(株)サンマーク出版	取締役財務部部長社長秘書室長兼任	富士電機(株)	技術開発本部イノベーション創出センター技術マーケティング室長
宇部興産(株)	医薬事業部企画管理部主席部員	旭化成(株)	研究・開発本部技術政策室イノベーション戦略部マネージャー
合同会社SNパートナーズ	代表取締役(元 富士フイルム(株) 新規事業開発本部フェロー)	アサヒグループ食品(株)	研究開発本部研究開発企画部担当部長
アズビル(株)	ITソリューション本部マネージャー	オリンパス(株)	イノベーション推進室技術戦略部2グループ課長代理
アルプスアルパイン(株)	イノベーションラボマネージャー	(株)小糸製作所	研究所主管
出光興産(株)	アグリバイオ事業部海外事業統括マネージャー	太陽ホールディングス(株)	営業統括本部課長
宇部興産(株)	研究開発本部先端技術研究所第二研究グループグループリーダー	帝人(株)	複合成形材料事業本部複合成形材料営業部オートモチーフ営業課担当課長
花王(株)	研究開発部門研究戦略・企画部主任研究員	帝人(株)	複合成形材料事業本部複合材料技術開発センター知財評価チームチームリーダー
(株)カネカ	Performance Fibers Solutions Vehicle統括グループ管理チーム主任	帝人(株)	複合成形材料事業本部複合成形材料営業部コンポジット営業課課長
(株)ダイセル	知的財産センター知的財産グループ主席部員	(株)椿本チエイン	開発・技術センター新ビジネス開発プロジェクトリーダー
帝人(株)	マテリアル技術本部マテリアル技術企画部担当部長	日本電気(株)	デジタルプラットフォーム事業部シニアマネージャー
東芝テック(株)	ビジネス・イノベーションセンターセンター長	オムロン(株)	イノベーション推進部
(株)豊田自動織機	経営企画部事業企画室主査	シナノケンシ(株)	グローバル経営企画本部経営戦略室室長
日本ガイシ(株)	電力事業本部営業企画部兼新事業企画室マネージャー	パナソニック(株)	エコソリューションズ社技術本部R&D企画室
(株)日本触媒	事業創出本部企画推進部部長	ヤンマー(株)	社長室コネクティッドビジネスグループ課長
ヤマハ(株)	ブランド戦略本部マーケティング統括部UX戦略部UX企画グループリーダー	JSR(株)	JSR・慶應義塾大学医学化学イノベーションセンター主任研究員
(株)リコー	事業開発本部事業開拓室室長	(株)日阪製作所	未来事業推進部未来事業企画課係長
味の素(株)	アミノサイエンス事業本部化成部品事業開発グループ長	日立キャピタル(株)	経営戦略室新事業研究・開発部主任
アルプスアルパイン(株)	技術企画室主任技師	日亜化学工業(株)	経営企画室
川崎重工業(株)	企画本部事業企画部課長兼マーケティング本部MDプロジェクト部課長	日東工業(株)	開発本部新規開発部部長
コニカミノルタビジネスアソシエーツ(株)	事業開発室連携推進グループ地域・産学官連携担当	合同会社MOTT	代表社員(元(株)リコー グループ技術開発本部)

『異なる視点による本音の議論で、自らの新規事業を見つめ直す！』

■これまで、新規事業に関する様々な課題を一企業の中で悩んでいましたが、本交流会議において異業種の新規事業開発責任者の方々と本音の議論をすることで、自らの新規事業を見つめ直すきっかけとなり、自社内では気付かなかった課題解決のヒントを得ることが出来ています。また、年2回の合宿や企業見学会、毎月の定例会前に実施している有志勉強会や参加企業のショールーム等見学会においても毎回非常に活発な情報・意見交換が行われており、私自身、実際に他の参加企業との連携による新規事業の芽も見出しています。皆さんもぜひ一度、この輪に加わってみてください。

旭化成(株) 研究・開発本部技術政策室シニアマネージャー

『自らのセンスを磨き、社内説得の武器を得る』

■新規事業のネタがない、技術の棚卸しができない、新規事業がなかなか立ち上がらない、立ち上げたが前に進まない、失敗したが次につながらない、組織・風土改革がうまくいかない、人材が集まらない・育たない、、、など、新規事業に携わっている方々は多くの問題意識を持っています。私も同じ悩みを抱えて、5年前に本交流会議に参加し、その後、継続参加しています。本交流会議では1年を通して様々な事例、環境動向、新たな考え方の気づきが得られ、毎回、自社に持ち帰る情報がいっぱいです。得られる知識と人脈は自分の武器になりセンスを磨くことにつながっていると感じています。

オリンパス(株) イノベーション推進室技術戦略部2グループグループリーダー

『貴重なインプットの場』

■新規事業が思うように立上らない、多くの会社で同じような悩みを持つ担当者や幹部が数多くいると思います。新規事業関連の書籍も多数出ていますが、実際には簡単ではありません。本交流会議では、様々なバックグラウンドを持つメンバーと一緒に講演を聞き、ディスカッションをすることで、新規事業開発の進め方のポイントを発見でき、講師やメンバーからのアドバイスを通じ、「自分の考え方が正しいか？」を再確認できます。また、例会前の勉強会では、自分では読まないような本を輪読、討議することで理解が一層深まります。私は、社内でアウトプットして行くための「貴重なインプットの場」として、本交流会議を大いに活用しています。

古河電気工業(株) 戦略本部新規事業推進部主幹

第33期 新規事業開発担当幹部交流会議 申込要領

事業コード：180015

1名につき **正会員** 本体価格**290,000**円+消費税 **一般** 本体価格**320,000**円+消費税

参加料

- * 「正会員」とは、一般社団法人企業研究会に法人会員としてご登録いただいている企業のことです。(登録の有無は、当会ホームページ(TOP) → (会員一覧)でご確認いただけます。)
- * 合宿参加費(30,000円程度)や特別懇親会費などは、別途実費をご負担いただけます。
- * 分割や次年度のお支払いも承ります。お気軽にご相談ください。

【体験参加について】第1回例会(3/26)は、当交流会議への正式参加をご検討いただける方に限り、会合の雰囲気やメンバー構成をご覧いただく体験参加をお受けします。ご希望の方は、当会ホームページよりお申込みください。(※講演部分のみの体験参加はお受け致しかねますので、予めご了承ください。)

以下【1】【2】のいずれかの方法でお申込ください。(体験参加も同様です)

【1】 企業研究会ホームページ内 申込フォームより

【2】 担当者へのメール (以下項目を担当 上島 kamijima@bri.or.jp まで直接ご送信下さい。)

①御社名 ②所在地 ③参加者お名前 ④ご所属・お役職 ⑤E-mail ⑥TEL ⑦正式参加 or 体験参加
※お申込窓口(事務担当、秘書など)がおられる場合は以下も併せてお知らせ下さい。

①お申込窓口お名前 ②ご所属・お役職 ③E-mail ④TEL ⑤請求書送付先(ご参加者orお申込窓口)

* 正式参加の方には、折り返し請求書をお送り致します。なお、ご記入いただいた個人情報、
「第33期 新規事業開発担当幹部交流会議」に関する事務連絡および弊社主催事業のご案内に利用させていただきます。

◆担当：一般社団法人 企業研究会 「第33期 新規事業開発担当幹部交流会議」事務局

担当：上島(かみじま) E-mail:kamijima@bri.or.jp

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 MFPR麹町ビル2階 TEL:03-5215-3516

申込方法